

記者配布資料

平成 31 年(2019 年) 2 月 28 日

所属名	所属長名	部局長名	担当者職・氏名	連絡先
山口県立大学	学長 か と だ けい こ 加登田 恵子	地域共生センター 所長 た な か ま き こ 田中 マキ子	地域共生センター いのまた か な え 猪俣 加奈恵 おきた ま り 沖田 真理	☎ 083-928-3495
発表内容の 関係地域	全県、岩国、柳井、周南、山口、防府、宇部、山陽小野田、下関、長門、萩、首都圏			

1 件名

2019 年度 山口県立大学前期公開授業
「日本文学史 I」「メディア文化論」「生命と生活の質特論」の開催について

2 内容

山口県立大学では、本学の授業科目の一部を一般公開しています。
本学教員による講義を学生と一緒に受講してみませんか。
(受講料 5,000 円：初回の受付時にお支払ください。)

授業名	概要	①開催期間 ②会場 ③申込期間
日本文学史 I	上代から中世、それぞれの時期の代表的日本文学作品を歴史的背景と併せて概説します。 ※定員 5 名、先着順 【全 15 回】	①4 月 8 日(月)～7 月 29 日(月) 14:40～16:10 ②山口県立大学 北キャンパス 2 号館 B203 教室 ③3 月 11 日(月)～4 月 5 日(金)必着
メディア文化論	現代社会におけるメディアの役割と特質について基礎的知識を身に付けます。 ※定員 5 名、先着順 【全 15 回】	①4 月 9 日(火)～7 月 30 日(火) 14:40～16:10 ②山口県立大学 北キャンパス 2 号館 B202 教室 ③3 月 11 日(月)～4 月 5 日(金)必着
生命と生活の質 特論	生命・生活・人生の質について 5 つの学問分野からみなさんと一緒に考え、認識を深めます。 (大学院の授業です) 【全 15 回】	①5 月 11 日(土)・5 月 18 日(土) 5 月 25 日(土)・6 月 1 日(土) 6 月 8 日(土)・7 月 6 日(土) ②山口県立大学 北キャンパス 2 号館 B203 教室 ③3 月 11 日(月)～4 月 24 日(水)必着

詳しい講義内容・日程については、直接お問合せいただくか別添チラシ（本学ウェブサイトにも掲載しています）をご確認ください。なお、教室は変更になる場合があります。

3 申込方法

ウェブサイトの申込みフォーム、または電話かFAXで希望の科目、住所、氏名（ふりがな）、電話番号・FAX番号を申込先
〈山口県立大学地域共生センター共生教育部門〉までお知らせください。

4 申し込み・問い合わせ先

〒753-8502 山口市桜島3丁目2-1
山口県立大学地域共生センター 共生教育部門
TEL 083-928-3495
FAX 083-928-3021
ホームページ <https://www.ypu.jp/>





公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

山口県立大学 2019年度前期

公開授業

4月~8月

受講料
各5,000円

山口県立大学では、大学生が受けている授業科目の一部を、地域のみなさまにも公開しています。学生と一緒に受講してみませんか。

日本文学史Ⅰ

上代から中世、それぞれの時期の代表的日本文学作品を歴史的背景と併せて概説します。

メディア文化論

現代社会におけるメディアの役割と特質について基礎的知識を身に付けます。

生命と生活の質特論

生命・生活・人生の質について5つの学問分野からみなさんと一緒に考え、認識を深めます。

受講申込みの流れ

①申込み

ウェブサイトの申込みフォーム、または下記の申込書に記載の必要事項をFAX、または電話にてお知らせください。

申込期間

日本文学史Ⅰ 3月11日(月)~4月5日(金) (先着5名)
メディア文化論 3月11日(月)~4月5日(金) (先着5名)
生命と生活の質特論 3月11日(月)~4月24日(水)

②受講決定通知

受講決定者にはメールまたは郵便にて、教室や出席の確認など受講のご案内をお送りします。

③受講

第1回目の授業には必ず出席し、受付にて受講料5,000円をお支払いください。

お問合せ・お申込み先

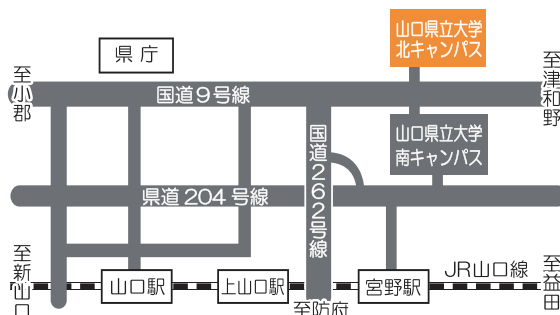
山口県立大学 地域共生センター

〒753-8502 山口市桜島3丁目2-1

TEL: 083-928-3495 FAX: 083-928-3021

URL: <https://www.ypu.jp/>

WEBからお申込み
できます。



FAXでお申込みの方は以下の受講申込書をご利用ください。

参加希望の科目	<input type="checkbox"/> 日本文学史Ⅰ	<input type="checkbox"/> メディア文化論	<input type="checkbox"/> 生命と生活の質特論
(ふりがな) お名前	ご住所		〒
TEL (日中連絡の取れるもの)	FAX		
E-mail			

※受講申込書に記載された個人情報については、本講座に関する連絡等の目的以外には使用しません。

日本文学史Ⅰ（文化創造学科）

4月8日～7月29日 毎週月曜日 14:40～16:10【全15回】

山口県立大学 北キャンパス 2号館 B203教室

担当教員：国際文化学部 教授 稲田 秀雄

- ・申込期間：3月11日(月)～4月5日(金) 必着
- ・定員5名(先着順)



■授業概要

日本文学を学ぶ。日本の文化を、社会を知る。

上代から中世(奈良時代～室町時代)までに成立したさまざまな日本文学作品をとりあげ、それぞれの時期を特徴付けるジャンルおよび代表的作品を概説し、その歴史的背景や相互の影響関係について、作品の一節を適宜紹介しながら講義することで、日本文化および日本社会を理解するための基礎的な知識を養うことを目指します。

回	テーマ	内容
1	神話の世界—『古事記』	日本文学史の用語について概説した後、『古事記』に記された古代神話を紹介し、文学の始源(はじまり)について考える。
2	上代の「うた」— 古代歌謡と万葉集	『万葉集』の長歌や記紀歌謡を紹介し、和歌以前の歌謡の特色について考える。
3	中古の詩歌— 古今和歌集と和漢朗詠集	『古今和歌集』と『和漢朗詠集』をとりあげ、平安期の詩歌の特色と後代への影響、漢詩との関係などについて考える。
4	物語の成立— 竹取物語と伊勢物語	物語の祖といわれる『竹取物語』と、歌物語の代表的作品『伊勢物語』をとりあげ、『源氏物語』以前の物語の特質を考える。
5	物語の達成—源氏物語	物語文学の最高峰とされる『源氏物語』の作者と内容について概説し、仮名文学の達成を考える。
6	古代説話の世界— 今昔物語集を中心に	日本文学史における説話集の成立について概説した後、最大の説話集『今昔物語集』をとりあげ、説話文学の特質を考える。
7	中世の和歌と歌謡	中世を代表する歌集『新古今和歌集』をはじめ、『閑吟集』等の歌謡の世界を紹介し、中世の「歌」の特質について考える。
8	軍記物語の世界—平家物語	中世を代表する軍記物語である『平家物語』の成立や内容について概説し、軍記物語の特質を考える。
9	軍記物語の展開— 太平記・曾我物語・義経記	『太平記』『曾我物語』『義経記』等の後期軍記作品を紹介し、軍記物語の展開について考える。
10	室町物語(御伽草子)の世界	多様な室町物語(広義の御伽草子)の中から、特色ある作品をいくつか紹介し、絵画との関連などを通して、室町物語としての特質を考える。
11	中世の随筆と日記— 方丈記・徒然草他	教材としてもよく知られた『方丈記』『徒然草』について概説し、中世の日記(紀行)についても触れる。
12	中世の説話— 宇治拾遺物語・沙石集他	中世に多様な展開を見せる説話集について、代表的な作品を紹介しながら、その編集方法や表現の特質について考える。
13	劇文学の成立—能と狂言	中世に開花した最古の本格的演劇である能と狂言の成立について概説し、代表的作品を紹介しながら、先行文学の継承と展開について考える。
14	語り物の世界— 幸若舞曲・説経・絵解き	中世芸能の一環としての語り物から、幸若舞曲・説経・絵解きをとりあげ、その特色を概説する。
15	まとめ— 日本文学史における伝統と創造	これまでに扱った上代から中世までの文学の流れを振り返り、その伝統と創造について考え、本講義のまとめとする。

※会場、日程等変更になる場合があります。

メディア文化論 (国際文化学科)

4月9日～7月30日 毎週火曜日 14:40～16:10【全15回】

山口県立大学 北キャンパス 2号館 B202教室

担当教員：国際文化学部 教授 吉本 秀子



・申込期間：3月11日(月)～4月5日(金) 必着

・定員5名(先着順)

■授業概要

現代社会にメディアがもたらしたものは。

人間と社会を仲立ちするものとしてのメディアの歴史や時代ごとの役割の変遷について概観します。新聞やテレビなどのマスメディアの登場以後、大衆の消費文化の一部として生まれてきたさまざまなメディアについても紹介します。道具として生まれたはずのメディアが人々を操作する可能性を有する問題点などについても、事例をとりあげつつ深く考えていきます。

回	テーマ	内容
1	メディア文化研究への招待	メディアとは何か。メディア文化とは何か。講義内容の説明。前半は基礎理論編、中盤は歴史事例編、後半は同時代編とする。
2	基礎理論編① 「送り手レベル」の分析	マス・コミュニケーション研究の基本的分析スタンスを紹介。その第1回は規範理論を概説し、政治とメディアの関係を考える。
3	基礎理論編② 「メディア・レベル」の分析	マス・コミュニケーション研究の中核となるメディア組織とコンテンツ分析についての代表的研究を紹介する。
4	基礎理論編③ 「受け手レベル」の分析	マス・メディア効果論の歴史的な流れと、盛んに行われているオーディエンス(受け手)レベルの研究について紹介する。
5	歴史事例編① 米国ジャーナリズムの思想的背景	米国新聞史を概観し、「言論の自由」に関する思想的起源と20世紀における新聞の大衆化がもたらした影響について考える。
6	歴史事例編②明治における 国際化と日本新聞史	日本における新聞史を概観し、特に日露戦争報道の例をもとに、当時の国際情勢と国際報道の関係を考察する。
7	歴史事例編③第二次世界大戦 における新聞・ラジオ・映画	満州事変から第二次世界大戦に至るまでの日米報道を比較し、戦時の日米相互の「敵」のイメージがいかに形成されたかを探る。
8	歴史事例編④国際連合の理想、 ユネスコの挑戦	第二次世界大戦の経験をふまえて設立された国際連合が、平和構築の理想をどのように掲げ、どのように「挫折」したか。
9	歴史事例編⑤ベトナム戦争と テレビ・ジャーナリズム	ベトナム戦争をお茶の間に届けたテレビの役割を考察し、東西冷戦における「情報」の役割を探る。
10	歴史事例編⑥90年代の民族 紛争と国際世論	「民族」がキーワードになる90年代以降の国際報道の特徴を理解し、現在におけるメディアの役割を探る。
11	歴史事例編⑦ 9.11報道とテロリズム	9.11報道とイラク戦争報道を例に、21世紀における国際ジャーナリズムとメディアの問題点と課題を探る。
12	同時代編① <国際交流> 交換留 学生と日本のアニメーションを見る	日本文化の象徴となっているアニメ・マンガ。交換留学生と一緒に日本のアニメーションを見てメディア文化を考える。
13	同時代編② 広報文化外交とソフトパワー	東京オリンピックも世界遺産も日本のソフトパワー戦略の一部である。日米の例を中心に「ソフトパワー」の光と影を考察する。
14	同時代編③ソーシャルメディア 時代のフェイク・ニュース	SNS空間にとびかう「フェイク・ニュース」が問題になっている。ネットメディア時代における「事実」とは何かを考える。
15	学生によるプレゼンテーション とレポート提出・意見交換	これまでの講義をふまえて、自分なりの「メディア文化論」を文章で表現し、口頭で発表する。

※会場、日程等変更になる場合があります。

生命と生活の質特論(大学院)

5月11日～7月6日 土曜日【全15回】
山口県立大学 北キャンパス 2号館 B203教室

申込期間:3月11日(月)～4月24日(水) 必着

■授業概要

生命・生活・人生の質を高めるために考えよう。

いま大きな危機にさらされている私たちの生命・生活・人生の質(quality of life)を複眼的な視点で問い、自由なディスカッションやワークショップ形式の学び合いの中で認識を深めていきます。



回	日程	時間	テーマ	内容	担当教員
1		10:25～11:55	授業ガイダンスとイントロダクション	QOLとは何だろうか。第1回目は、これから、どのような視点で何に焦点を合わせて論じようとしているかについて、5人の講師が語ります。	担当教員 全員
2	5/11(土)	12:55～14:25	心理発達の視点からQOLについて考える①	年齢を経るに連れて乗り越える心理的課題は変化する。この課題について母子関係の重要性を中心に、乳幼児期、学童期に沿って紹介する。	看護栄養学部
3		14:40～16:10	心理発達の視点からQOLについて考える②	1回目に引き続き青年期、成人期、老年期に沿って紹介する。個人の体験の振り返りのきっかけや、周囲との関わり方のヒントとして想像を広げながら一緒に考えていきたい。	佐々木 直美
4	5/18(土)	8:40～10:10	異文化理解がもたらすQOL①	国と国との間の異文化理解だけではなく、世代間、性別間、地域間の異文化理解を考える。	国際文化学部
5		10:25～11:55	異文化理解がもたらすQOL②	ワークショップ形式で「異文化理解をするために必要なことは何か」について考え、また異文化理解の学問からの考え方について学ぶ。	ウイルソン・エイミー
6	5/25(土)	8:40～10:10	栄養学からQOLについて考える①	そもそもQOLってなんだろう。自分にとってはどうだろう。QOLと栄養・食生活に関係はあるのだろうか。身近なところから考えてみたい。	看護栄養学部
7		10:25～11:55	栄養学からQOLについて考える②	「健康な暮らし」を考えると、食生活は重要な要素になる。「QOLを高める食生活」とはどのようなものか多角的に考えてみたい。	乃木 章子
8	6/1(土)	8:40～10:10	法学からQOLを考える①	ACPとは何だろうか。ACPとアドバンスディレクティブ、リビングウィルなどの関係について整理する。また、厚労省「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」について考えたい。	社会福祉学部
9		10:25～11:55	法学からQOLを考える②	成年後見制度は、本人のQOLの維持・向上に役立っているか。どのようにすれば役立てることができるか。具体的事例から考えたい。	藪本 知二
10	6/8(土)	8:40～10:10	テクノロジーとQOLについて考える①	身近な生活がテクノロジーとともにどのように変化していくのかを考えてみる。メディアを活用した情報発信などの視点からアプローチし、QOLはどのように変化していくのか多角的に考えたい。	国際文化学部
11		10:25～11:55	テクノロジーとQOLについて考える②	ワークショップ形式を交え、「テクノロジーと生活の関係性」について考える。また、最終日のディスカッションとプレゼンテーションに向けてグループ分けし、課題についてどう取り組むかを話し合う。	倉田 研治
12		8:40～10:10	分科会・ディスカッション①	学生は、分科会(担当教員別に第1～第5分科会)に参加し、ディスカッションをする。教員は、分科会に参加し、助言する。	担当教員 全員
13	7/6(土)	10:25～11:55	分科会・ディスカッション②	学生は引き続き同じ分科会でディスカッションをし、全体会での発表をまとめる。教員は、分科会に参加し、助言する。	
14		12:55～14:25	分科会報告(第1～第3分科会)	第1、第2および第3分科会での討論の内容を全体会で学生代表が発表し、その発表について参加者全員でディスカッションする。	
15		14:40～16:10	分科会報告(第4～第5分科会)	第4、第5分科会での討論の内容を全体会で学生代表が発表し、その発表について参加者全員でディスカッションする。	

※会場、日程等変更になる場合があります。